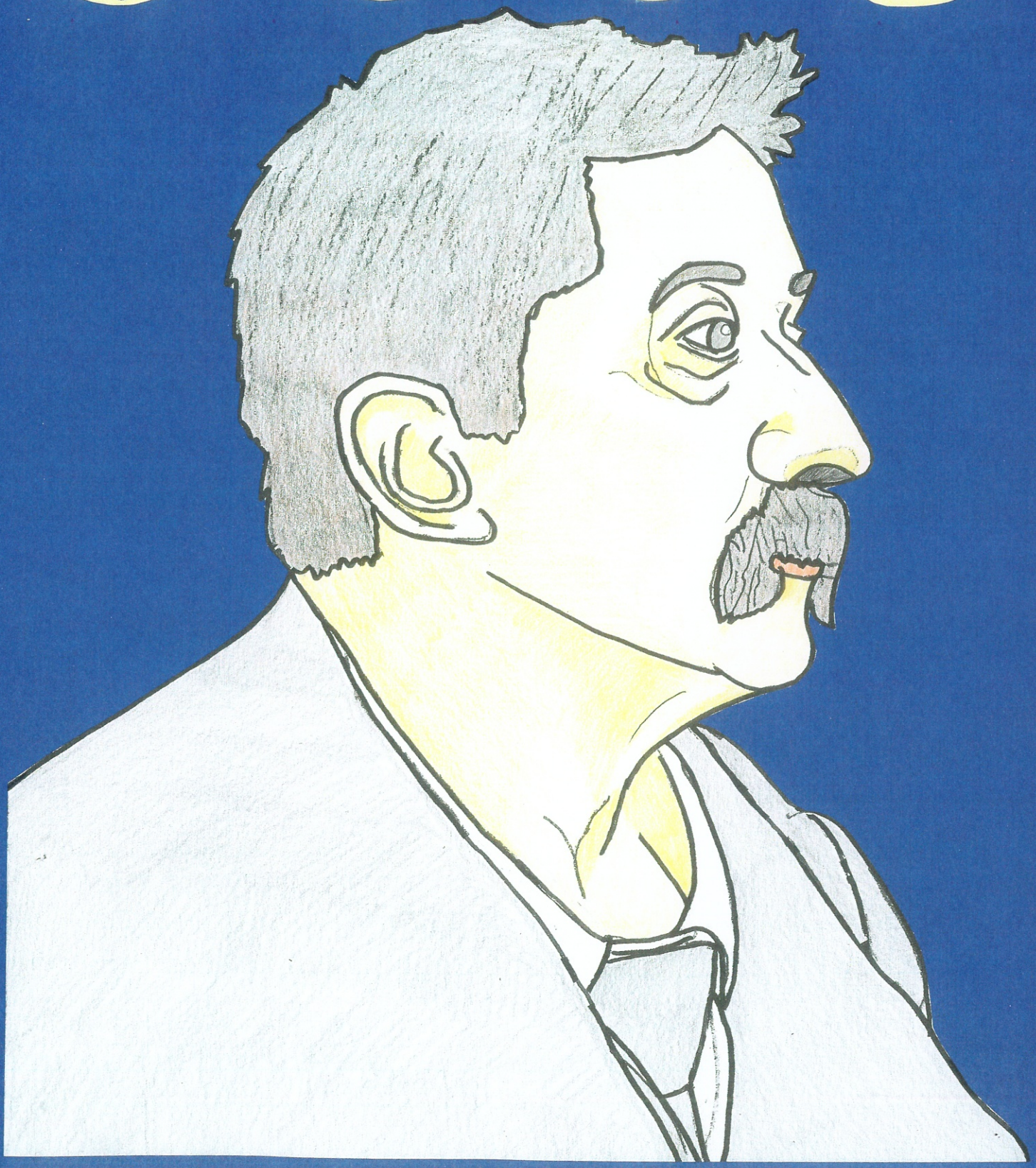
小泉八雲



豊島区立豊成小学校

6年2組　長﨑大嘉

目　次

	内　容	ページ
	きっかけ	1
	コロナ禍での取り組み方	2
第1怪	「小泉八雲」の生い立ち ヨーロッパ、アメリカ、 横浜、松江（小泉八雲記念館・旧居）、 熊本、神戸、東京	3 ～ 12
第2怪	「小泉八雲」という名前の由来 由来となった和歌について 『古事記』とは何か	13～19
第3怪	神々の国の首都に行ってみよう 黄泉比良坂、揖夜神社、 屏風岩、出雲大社、 島根県立古代出雲歴史博物館	20～27
第4怪	『怪談』 一夜 「雪女」「飴を買う女」、松江の怪談	28～36
	『怪談』 二夜 「守られた約束」「鳥取のふとん」、 水木しげる記念館	37～41
	『怪談』 三夜 「耳なし芳一」	42～44
	『怪談』 四夜 「ろくろ首」、東京の怪談 角川武蔵野ミュージアム	45～48
	おわりに	49・50

付録　『怪談』の世界へようこそ（紹介ページ）

きっかけ

コロナ禍での取り組み方

きっかけ

小学校最後の自由研究となりました。ぼくは、自分の好きなことをつきつめたいと思い、小泉八雲の『怪談』について調べることに決めました。

ぼくはもともと妖怪に興味があり、こわい話を読むのが大好きでした。ふとんをかぶりながら本を少しだけ開いて、手に汗握りながら読むのです。

昨年度は、新型コロナウイルスが流行したときに有名になったアマビエをきっかけに、「疫病退散　終息を祈り続けて」というタイトルで自由研究に取り組みました。アマビエのように魅力的な妖怪はたくさんいます。一見あやしい姿をしていますが、悪さをする妖怪ばかりではなく、愛敬があって親しみやすい妖怪もいるのです。

そして、世の中にこわい物語はたくさんありますが、中でも小泉八雲の『怪談』は引き込まれます。ただこわいだけではなく、読むたびに新しい発見があったり、深く考えさせられたり、しみじみとした気持ちにさせられたりするのです。さらに、作者の小泉八雲が「ラフカディオ・ハーン」という名前でギリシャ生まれだったことを知ったときには、一気に関心が高まりました。

そのため、今回は『怪談』や作者の小泉八雲について調べていきたいと思います。

コロナ禍での取り組み方

昨年度はコロナ禍での初めての夏休みとなり、調べ学習にとても苦労しました。図書館でじっくり本を探すこともできず、思うように外出することもできなかったからです。

そのため、今年度は5年生のうちにテーマを決め、6年生になる春休みから少しずつ取り組むことにしました。もし夏休み中ずっと緊急事態宣言が出ていたとしても、自宅で進められるように工夫しました。

春休み	島根県（出雲市・松江市）と 鳥取県（境港市）に行く。
1学期	『怪談』を読む。 作者の小泉八雲について調べる。 （生い立ちや名前の由来など） 調べ方 ・図書館で本を借りる。 ・図書館にない場合は書店で買う。 ・インターネットで検索する。 ・実際に行って見て確かめる。
夏休み	調べたことを用紙にまとめる。

⚠対策⚠　外出する際は事前に準備と確認をする（何を調べたいのか、どれくらい時間がかかりそうか、行く先の感染対策など）。マスク着用・手洗い・手指消毒を徹底する。また、緊急事態宣言中の外出は避けました。

第1怪

「小泉八雲」の生い立ち

ヨーロッパ

アメリカ

横浜

松江（小泉八雲記念館・旧居）

熊本

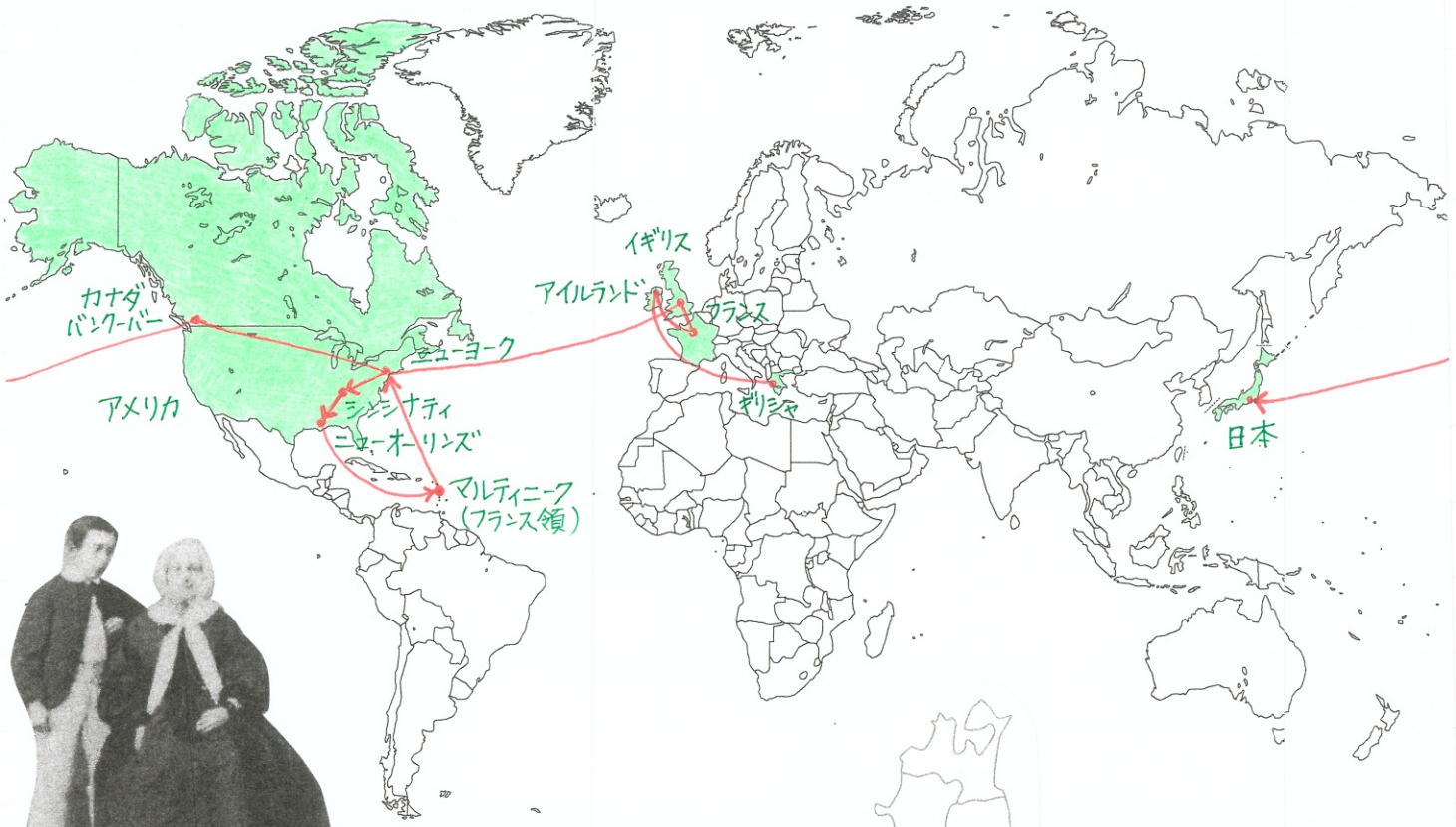
神戸

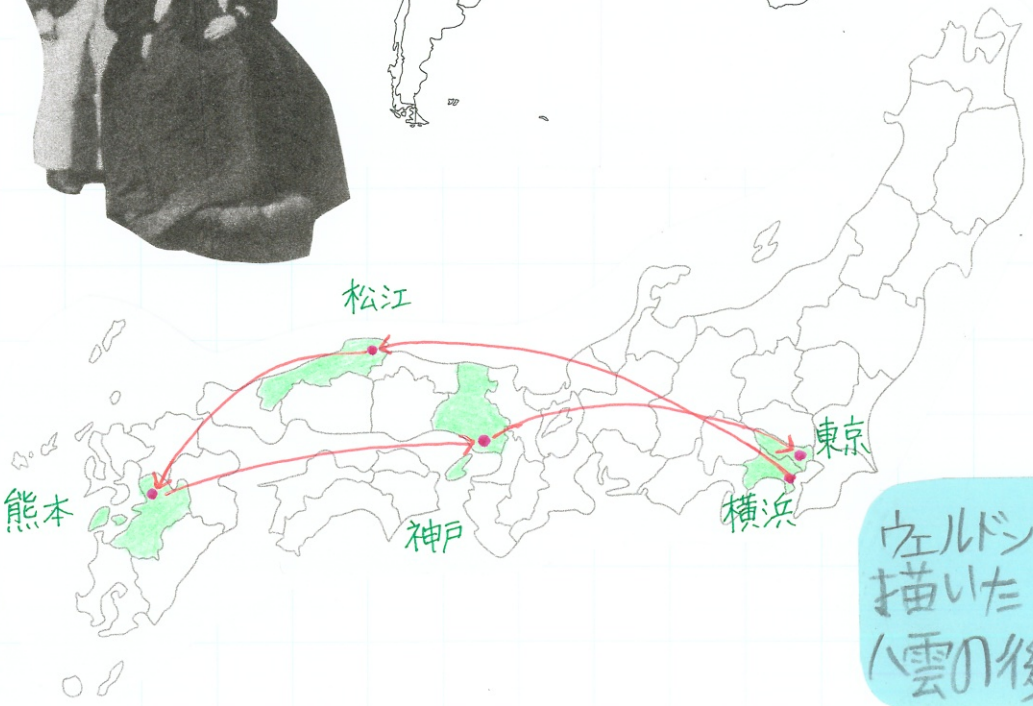
東京

「小泉八雲」の生い立ち

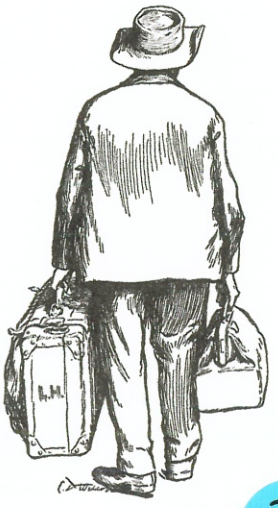
誕生日：1850年6月27日
出身地：ギリシャのレフカダ島
本名：パトリック・ラフカディオ・ハーン
父　：チャールズ（アイルランド人の軍医）
母　：ローザ（ギリシャ人）

八雲は生涯、各地を転々としました。





ウェルドンが描いた八雲の後ろ姿



ヨーロッパ　誕生と幼少期

誕生	ギリシャのレフカダ島に生まれる。
2才	父の実家であるアイルランドに移る。（父軍務のため不在。）
4才	母は異国での暮らしに精神状態が不安定になり、大叔母のもとで育てられる。（後に母はギリシャに帰国。）
7才	父は一方的に離婚し初恋の女性と再婚。
13才	イギリスの全寮制の学校に入学。
16才	左眼を失明。

● 両親を失ったハーンはさびしい子ども時代を送りました。暗い寝室に一人で寝かされて悪夢にうなされたり、教会に連れて行かれゴシック建築の古い聖堂に恐怖を感じたりするなど、こわい体験を何度もしました。

● 全寮制の学校では、厳格なカトリック教育に違和感を覚えます。校庭の遊具のロープの結び目が左眼に当たって失明するという不幸な事故も起こります。それ以降、左眼がコンプレックスになりました。さらに、大叔母の経済状況が悪化したことにより学校を中退。内向的な性格になっていきます。

● また、ハーンは母や自分を捨てた父のことを許さず、母には深い同情と憧れを抱いて、一生慕い続けました。

● ハーンは母と二度と会うことができず、幼年期から天涯孤独の人生を歩み始めるのです。

アメリカ　青年期

19才	渡米。シンシナーティで職を転々とする中、印刷屋のヘンリー・ワトキンと出会い、ハーンの生活が好転していく。
24才	新聞記者となる。
27才	ニューオリンズに移る。
35才	世界産業博覧会の日本館で、日本政府の事務官服部一三と出会う。（後に来日の際就職の助けを借りる。）
37才	マルティニーク島で執筆活動を行う。
39才	初めての小説『チータ』を出版。

◎当時のアメリカはすでに弱肉強食の競争社会で、ハーンはあらゆる仕事を転々として苦労しました。このシンシナーティでの経験から、産業主義、物質主義、営利主義によって、世界中で土地や民族に固有の文化が失われ、魅力もなくなり、人間も不幸になったのだという考えを、生涯持つようになりました。

◎ハーンは新聞記者となり、いろいろな種類の記事を書きます。異文化への関心も高く、庶民の暮らしに注目して描写する手法は、ハーンの得意とするところでした。さらに、怪談や奇談に興味を示し、不思議な話、恐ろしい話も好んで書きました。文才を開花させ、記者として活躍していったのです。

○また、日本への関心を深め、記者をやめて作家となる決意を固めていきました。

横浜　日本の玄関口へ

39才	3月8日日本を目指してニューヨークを出発し、4月4日横浜港に到着。
40才	小説『ユーマ』を出版。

● ニューヨークに戻ったハーンは、東京帝国大学で教授をしていたチェンバレンの英訳した『古事記』を読んで日本への憧れを強くしました。読者の心に生き生きとした印象（まるで日本で暮らし、日本人の心で考えているような印象）を与える書物を書きたいという計画書を出し、日本美術への興味から意気投合した挿絵画家のウィリアム・パットンと共に、ハーパー社の特派員として日本に向かうことが決まりました。

● 1890年4月4日の朝、日本の表玄関である横浜港に到着。ハーンは日本の魅力を五感で感じてすっかり気に入り、通訳の真鍋青年と江ノ島や鎌倉に足をのばし、神社仏閣をめぐりました。

横浜港

鶴岡八幡宮

高徳院鎌倉大仏

色とりどりののれんや幟（のぼり）、下駄（げた）の音、畳（たたみ）の軟らかさ、お香（こう）の香りなど五感で感じました。

松江　神々の国の首都

40才	8月松江に到着。9月3日から尋常中学校でで英語の授業を開始する。

- ハーンは日本に長期滞在することを決意し、ニューオーリンズで知り合った服部一三や、『古事記』を訳したチェンバレンに就職を相談し、島根県尋常中学校、師範学校に英語教師として赴任することになりました。
- 松江では、教頭の西田千太郎や教え子達をはじめ多くの人々との親交があり、ハーンは日本人の誠実さや優しい人柄に共感し、日本にとけ込もうと努めました。
- そして、生涯の伴侶となる小泉セツにも出会います。セツは松江藩士の家に生まれ、ハーンの身の回りの世話をするため、住み込むように頼まれてきたのが最初の出会いでした。やがて二人は結婚して愛情細やかな夫婦となり家庭を持つことができたのです。

松江城のお堀　堀川遊覧船　宍道湖の夕焼け

宍道湖岸に位置する松江は「水の都」と呼ばれています。宍道湖の夕景は非常に美しく、「日本夕陽百選」にも選ばれています。

「小泉八雲記念館」

八雲についての展示がたくさんあり、いろいろな面から八雲のことを知ることができました。1番良かったのは「再話」コーナーです。八雲が再話した山陰地方の怪談を、朗読と音楽で楽しむことができるからです。

堀川沿いに八雲の像もありました。

「小泉八雲旧居」（ヘルン旧居）

八雲は松江に1年3カ月暮らし、そのうち約5カ月間をこの家で過ごしました。この家は旧松江藩主の武家屋敷でしたが、家主の仕事の都合で空いていたため、借りて住むことになりました。八雲はこの屋敷の庭がお気に入りだったそうです。

⇦八雲は近眼だったため、背の高い机を使いました。

熊本　日本を見る眼の深化

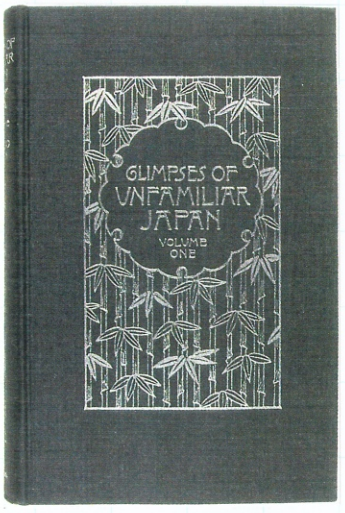
41才	11月妻セツとその家族と共に熊本へ移り、第五高等学校の教師になる。
43才	11月17日長男一雄誕生。
44才	『知られぬ日本の面影』を出版。

● ハーンは松江の厳しい寒さに体を壊し、熊本第五高等学校への転勤を決意。大勢の教員や生徒に見送られて熊本へ出発しました。

● 熊本では日常の快適さは増したものの、近代的な気風に失望を感じ、松江と比較してしまう複雑な心境でした。しかし、「人は何を一番永く記憶するか」というテーマを出したとき、つらい思い出が最も永く記憶に残ると答えた作文に、感動と親近感を覚えます。

● 授業の合間に著作を執筆する多忙な日々を過ごす中、長男一雄が誕生。ハーンは家族への責任と、かつてギリシャ人の母を捨てた父と同じ過ちを犯すまいとの思いから、帰化を考え始めます。

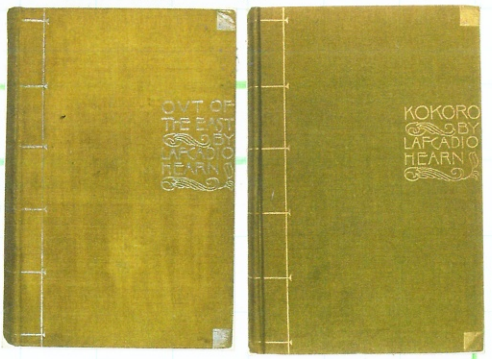
熊本旧居



八雲とセツ　『日本の面影』

神戸「小泉八雲」の誕生

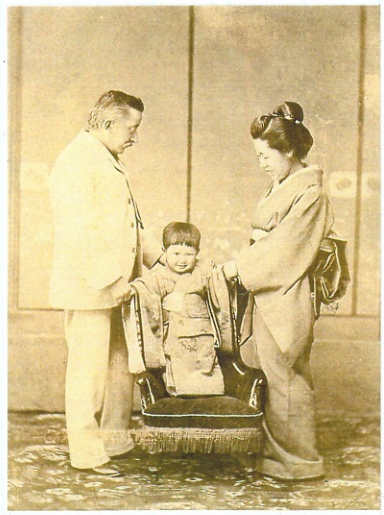
『東の国から』『心』



44才	転職のため神戸に移る。
45才	『東の国から』を出版。 「小泉八雲」と改名。 『心』を出版。

● ハーンは神戸に移り、英字新聞の記者となります。しかし、過労のために眼の病気が悪化し、約1年で退職。その一方で、『日本の面影』などの著作が重版を重ねて評判となり、著作活動だけで生計を立てることに自信を得ていました。近隣の京都や大阪、奈良を訪れては、庶民の暮らしを温かいまなざしで見つめた作品を書いています。

● また、『心』が出版される少し前に、前年に開始した複雑な帰化手続きがようやく完了します。「八雲」という名前は、『古事記』の中にある和歌にちなんで名付けられました。出雲を愛し、妻を大切にしたハーンにふさわしい、美しい名前に改名したのです。



小泉家

長男一雄の七五三のお祝い

京都(清水寺)

奈良(興福寺)

(コロナ前)

東京　生涯最後の地

46才	9月東京帝国大学（東京大学）文科大学講師の職を得て、東京に移る。
47才	2月15日次男巌誕生。 8月焼津を初めて訪れる。
49才	12月20日三男清誕生。
53才	退任。9月10日長女寿々子誕生。
54才	3月早稲田大学文学科講師になる。 4月『怪談』を出版。 9月26日心臓発作を起こし、間もなく息を引き取る。

● 東京帝国大学での講義は分かりやすく好評を博します。学生が熱心に書き取ったノートは講義録として残るほどでした。

● 夏は焼津で過ごすことが多くなり、セツと手紙を交換する機会が増えました。手紙の文面から、八雲を支えた幸せな家庭生活をうかがうことができます。

● また、八雲は再話の仕事に力を入れました。再話とはすでに伝わっている昔話や伝説を表現し直すことです。これをまとめたものが有名な『怪談』です。

● 東京帝国大学をやめて早稲田大学の講師になりましたが、残念ながら短いもので終わってしまいます。9月19日の午後、八雲は心臓に痛みを覚えます。

1904年9月26日小泉八雲逝去。54才でした。

小泉八雲終焉の地（新宿区大久保）

ギリシャ風！

小泉八雲記念公園

新宿歴史博物館（八雲は大久保に住んでいました。）

生い立ちを調べて

◎八雲は幼いときに愛するお母さんと離ればなれになってしまったことが、一番つらかっただろうと思いました。つらくてさびしいときに厳しくしつけられてしまったため、キリスト教に不信感を感じ、教会にも恐怖を感じたのだと思います。事故で失明したときには、左眼がコンプレックスとなり、その後は顔の右側がうつむいている写真しか撮らせなかったそうです。

◎経済的な事情で学校を退学した後は仕事を転々としながら苦労する日々を過ごしていましたが、文章の才能が認められたことと、日本に関心を持ったことが転機となり、八雲の人生が大きく変化しました。地道に努力を続けることと周りに目を向け興味のあるものを見つけることは、大切なことだと感じました。松江で妻セツに出会えたことで「小泉八雲」が生まれたことは、本当に良かったと思いました。

第2怪

「小泉八雲」という名前の由来

由来となった和歌について

『古事記』とは何か

「小泉八雲」という名前の由来

小泉　日本に帰化（国籍を取得）して、妻セツと同じ「小泉」という名字を名乗りました。

八雲　『古事記』にある日本最古の和歌にちなんで、セツの養祖父が「八雲」と名付けました。

↓

八雲立つ　出雲八重垣　妻籠みに
八重垣作る　その八重垣に

〔歌の内容〕　群がり重なり合って立つ雲
その名も出雲の国に建てた私達の御殿の周り
に垣根のように群がって立つ雲よ　愛する妻
と私のむつまじい暮らしを包みこむように
ず巻き立ち上る白い雲よ　垣根のような雲よ

この歌は、スサノオ（素戔嗚尊）がクシナダヒメ（奇稲田姫）と結婚したときに詠んだ喜びの歌です。

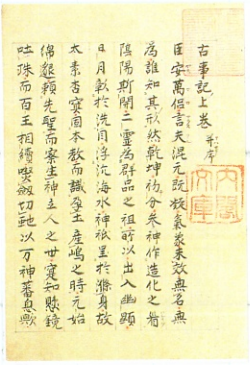
ぼくの名前の由来

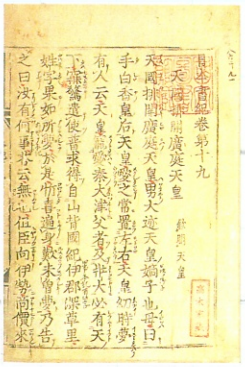
大嘉　大きく大らかに成長してほしい。家族みんなが誕生を喜んだので、めでたいという意味の字を選んだ。

疑問①『古事記』とは何？

➡『古事記』は日本最初の歴史書。神話の時代から書き起こし、飛鳥時代までの国の成り立ちをまとめたものです。

同じ時期に、『日本書紀』という歴史書も作られており、この2つをまとめて「記紀」と呼んでいます。





「記紀」くらべ

	古事記	日本書紀
成立	712年	720年
巻数	3巻	30巻十系図1巻
編者	稗田阿礼が語ったものを、太安万侶が書きとめた。	舎人親王がまとめた。
内容	天皇家などに伝わる話を、物語風にまとめてある。	いろいろな話を紹介している。

『古事記』は物語の要素が多く、『日本書記』は正式な歴史の記録という面が強いです。八雲は『古事記』の神話に魅力を感じました。

『古事記』と『日本書記』は、同じ国の歴史を記した書物ですが、内容は少し異なっています。昔話としても有名な「因幡の白兎」は、『古事記』にしか出てこない神話です。神話は事実ではないけれど、当時の人々の考え方を知る手がかりになっています。

疑問②「スサノオ」と「クシナダヒメ」とは誰？

→２人とも神話に出てくる神様。２人の結婚のきっかけは、あの有名なハ岐大蛇！？

スサノオは、高天原（たくさんの神々が住む天上の世界）を追放されて中つ国（出雲の国）へ降り立ったところ、なげき悲しんでいる家族に出会う。話を聞くと、しつの体に８つの頭、８つの尾を持ち、巨大で真っ赤な目をしたおそろしい化け物、ハ岐大蛇に食い殺されてしまう運命だと言う。スサノオは強い酒と垣根を作ってハ岐大蛇を待ち、酒によったところを剣（十握剣）で見事に退治。ハ岐大蛇と戦った荒々しいスサノオは、出雲の国で美しいクシナダヒメと結婚し、優しい心を持ったのです。

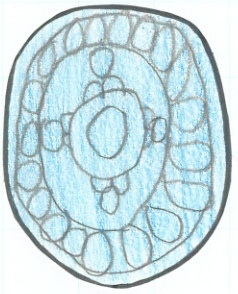
境港駅前

ハ岐大蛇

「八岐大蛇」にまつわる話

ふしぎエピソード

切り落とした大蛇の体の中から剣が出てきたのですが、これがのちの草薙剣(くさなぎのつるぎ)です。草薙剣(くさなぎのつるぎ)、八咫鏡(やたのかがみ)、八尺瓊勾玉(やさかにのまがたま)の3つを、三種の神器といいます。



玉造温泉駅

「勾玉」のこと

おどろきエピソード

大蛇の正体は、「川」ではないかという説があります。川は、いくつもの谷から流れ出て、やがて1つの大きな流れになり、そしてまた、いくつもの流れに分かれる様子は、大蛇の姿と似ています。大雨が降れば洪水を起こし、多くの命が失われたという恐怖が、八岐大蛇を生み出したのかもしれません。

びっくりエピソード

大蛇を退治したあと、荒れ果てた国を豊かにしようと、スサノオは驚きの行動に出ます。

ひげをぬいて杉の木を、むなげをぬいてひのきを、まゆ毛をぬいてくすのきを生やしたそうです。

名前の由来が分かったところで、「八雲」という名前について改めて振り返ってみました。すると、新たに3つの疑問が浮かびました。

疑問①「八雲」とは何重にも重なり合った雲を表しています。スサノオの結婚というハレの日に、「雲一つない空」（よく晴れた空）ではなく、雲が群がっているのはなぜ？

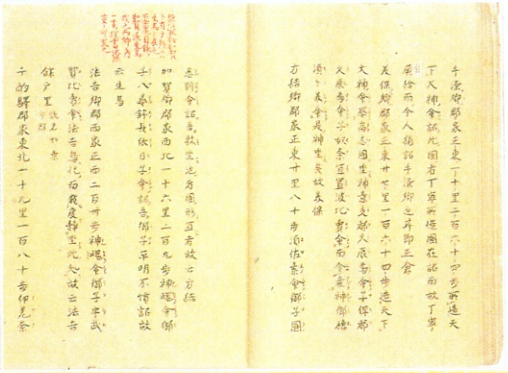
→予想　雲の上に神様がいて、スサノオの結婚をお祝いしているから。

➡答え

『古事記』をよく読んでみると、スサノオが須賀の宮を造ったときに、その地から雲が立ち上ったと記されていました。
新たに雲が立ち上る＝（イコール）新たな生活が始まるということを表していることが分かりました。
さらに、「八雲立つ」は「出雲」という言葉を導くための「枕詞」だということも分かりました。「八雲立つ」が出雲を表現（修飾）する言葉だということです。

また、この地が「出雲」と名づけた由来は、『出雲国風土記』の冒頭に記されています。
「出雲と名付けるわけは、八束水臣津野命がおっしゃったことには、「八雲立つ」とおっしゃった。だから、『八雲立つ出雲』という。

『風土記』とは、その土地のの地名、産物土地の状態、土地の由来、言い伝えを集めてまとめたもの。『出雲国風土記』は、出雲大社の宮司が編集し、733年に完成しました。



疑問② 由来となった歌「八雲立つ　出雲八重垣　妻籠みに　八重垣作る　その八重垣に」には「八重垣」が3回も出てきます。繰り返し「八重垣」が歌われているのはなぜ？

→予想　「八岐大蛇」のような恐ろしいものがまたいつ現れるか分からないので、厳重に家を守る大事なものだから。

⇒答え

この歌は結婚の喜びを歌った歌で、新しく家が造られた際の宴で歌う「新室寿の歌」なのだそうです。新婚者の幸福を祈る意味を込めて歌われました。

さらに、文字として読むのではなく、実際に声に出して歌ったとも いわれています。音楽の調子が良くなるように、「八重垣」がリズムよく詠まれているようです。

小鼓の発表会

疑問③「八雲」も「八重垣」も数字の「八」が使われています。なぜ「八」か。

→予想　形が末広がりで縁起がいいから。

➡答え

古代の日本において、「八」は聖数とされていました。また、数が大きいことを示すことにも使われました。

例えば、数多くのあらゆる神々という意味で「八百万の神々」といったり、神話の中では、数が多いという意味で「八咫鏡」（三種の神器）、「八尺瓊勾玉」（三種の神器）、「八咫烏」（三本の足を持つカラス）、「八塩折之酒（八岐大蛇に飲ませた強い酒）など、「八」の字が使われていたりすることがあります。

神武天皇を導いた3本足の烏（からす）。
（太陽の神の使い）

出雲大社の裏手には「八雲山」という山があり、スサノオが詠んだ和歌とは別に「八雲立つ　出雲へ」で始まる和歌もたくさん詠まれています。八雲＝出雲だということがよく分かりました。

感想　「八雲」という名前が『古事記』や出雲の国にちなんだ名前なので、八雲に合っていて、本当にいい名前だと思いました。

第3怪

神々の国の首都に行ってみよう

黄泉比良坂

揖夜神社

屏風岩

出雲大社

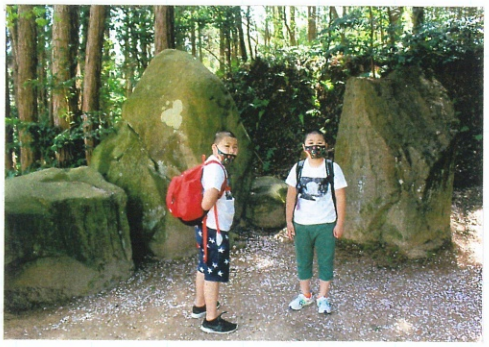
島根県立古代出雲歴史博物館

黄泉比良坂（よもつひらさか）

ぼくは、前回の自由研究で疫病にまつわる昔話を調べていく中で、神話の世界のおもしろさを知りました。

昔から桃は魔除け・厄除けの果実だと考えられていたのですが、その桃が登場するのが黄泉比良坂、黄泉の国（死者の世界）への入り口です。島根県出雲市に今でも残っていることが分かり、実際に行ってきました。

最寄りの揖屋駅からしばらく歩き、ゆるやかな坂を上ったところにありました。大きな岩は「千引岩」（千人の力でやっと動くほどの岩）といい、命からがら現世に戻ってきたイザナギが、この岩で黄泉の国の入り口をふさいだといわれています。



千引岩が黄泉の国の入り口です。

やまもものき

お参りを終えて来た道を戻ろうとしたら、1mくらいある蛇にそうぐうしました。

実は、神話に出てくるオオナムジしオオクニヌシのことは黄泉比良坂（よもつひらさか）で桃を食べた神様で、蛇の神ともいわれています。ということは、この蛇はもしかして……！？

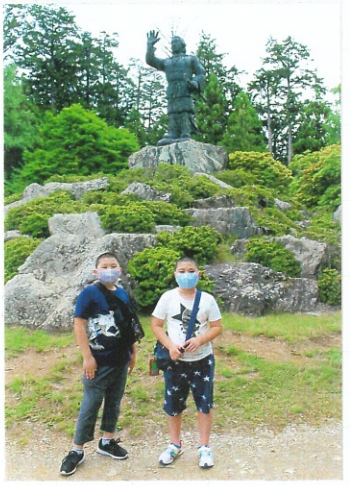
黄泉比良坂の近くには、黄泉の国に行ったイザナミ（伊弉冉尊）をおまつりしている「揖夜神社」があります。

最寄り駅は「揖屋」、神社は「揖夜」で、漢字が違いますが、読み方は同じで「いや」と読みます。

本殿は大社造りで、出雲大社によく似ていました。『日本書紀』には、揖夜神社が出雲大社の建立に関わっていたことが記されているそうです。そのため、造りが似ていることに納得しました。

東京にも神話に関係するところがあるか調べたら、埼玉県秩父市の「三峯神社」に日本武尊（ヤマトタケル）の銅像があることが分かりました。三峯神社の創始したといわれています。

こちら↓



狛犬ではなくオオカミです。

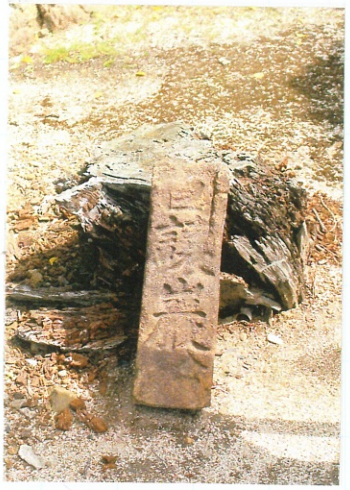
国ゆずり

オオナムジはオオクニヌシと名を改めて、農業や医術を広め、大国主という名前の通り、豊かな国をつくり上げました。その様子を高天原（たくさんの神々が住む天上の世界）から見ていたアマテラスは、タケミカヅチという神を使いに出し、オオクニヌシに国をゆずってもらいます。これが「国ゆずり」です。

伊那佐（稲佐）の浜で国ゆずりを申し出たタケミカヅチ。剣の刃の上に、あぐらをかいて座っています。痛くない？刺さらない？衝激的な姿です。

国ゆずりの話し合いは、「屏風岩」の岩陰で行われたそうです。

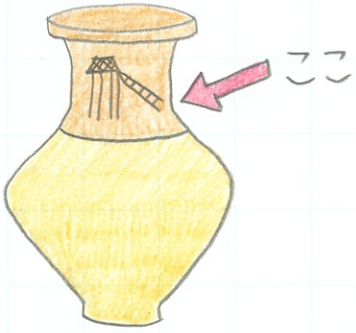
屏風岩は稲佐の浜の近くです。

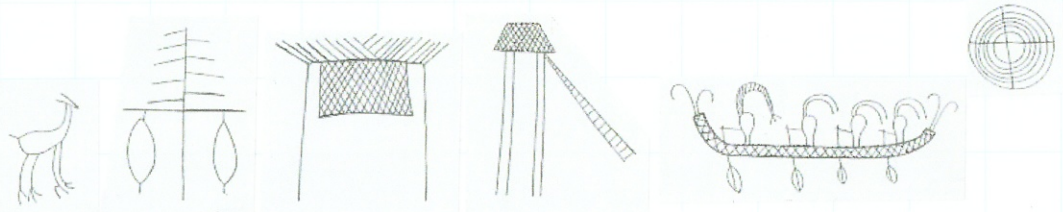


この「屏風岩」がある場所は、なんと一般家庭のお庭です。戦うことなく笑顔で国ゆずりをしたオオクニヌシの「和を尊し」とする心が、ここにも残っているように感じました。

オオクニヌシは、こんな簡単に快く自分がつくり上げた国をゆずって良かったのでしょうか。実は、「国ゆずり」には交換条件がありました。国をゆずる代わりに、大きな社を建ててもらうことになったのです。

発掘された土器に、そのお社が描かれています。





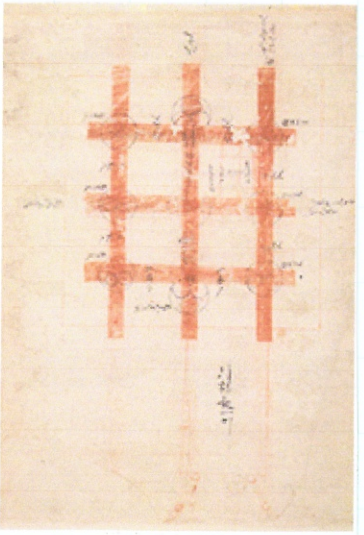
鹿？　樹木　倉庫？　建物　舟　太陽

クイズ　お社はどのくらいの大きさ？			
①	本殿の高さ　8m、	階段の長さ	30m
②	〃　28m、	〃	60m
③	〃　48m、	〃	100m

➡ 正解は③！

マンション16階建てと同じくらいの高さです。土器が作られていた時代に、そんな巨大な建物が建てられるなんて現実離れしているように思えます。

しかし、近年大発見がありました。出雲大社の境内から、直径が1.3mもある宇豆柱が3カ所から出土したのです。柱の配置や構造も、本殿の設計図とされる「金輪御造営差図」に描かれたものと類似していました。



宇豆柱…平成12年（2000年）に出雲大社の境内から発見された3本一組の柱。それぞれの柱の直径は約1.3m、3本束ねた直径は約3mになります。この巨大な柱が支えていた本殿の大きさをしのばせる重要文化財です。

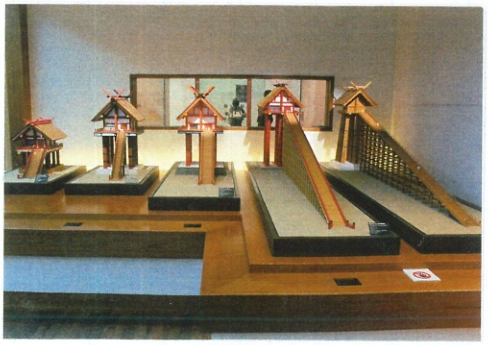
以前、東京国立博物館で開催された「日本書紀成立1300年　特別展『出雲と大和』」にも、この宇豆柱が出品され見に行きました。現在は、島根県立古代出雲歴史博物館に常設展示されています。

宇豆柱（うずばしら）

銅鐸（どうたく）

はにわ

さらに、平安時代の出雲大社本殿の復元模型も博物館で見ることができました。10分の1のサイズですが、いかに巨大なお社（やしろ）だったのかを実感しました



出雲大社

「出雲大社」は正式名称を「いずもおおやしろ」といいます。八雲立つ出雲の国が神の国・神話の国として知られているのは、神々をおまつりする古い神社が、今日もいたる所に鎮座しているからです。そして、その中心が大国主をおまつりする出雲大社です。

参拝

①稲佐の浜

大きな岩の上に鳥居と祠があります。全国の八百万の神々は、まず稲佐の浜に降り立ち、「神迎の道」を通って出雲大社に向かいます。

②勢溜の大鳥居

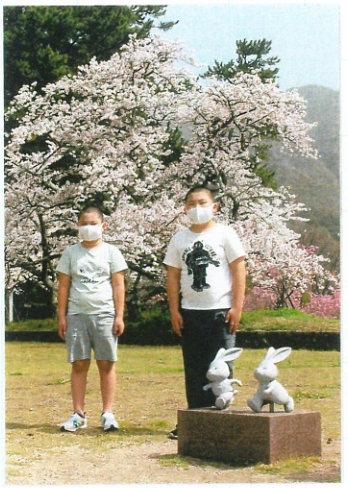
参道の入り口に立つ、この鳥居です。人々が集まる場所だったため、勢いが溜まるところという意味で「勢溜」と呼ばれています。

③参道

大国主が結び場の神となる「ムスビの御神像」の面があります。

参道を歩いて行くと、いくつもの像があります。その一つが、大国主とうさぎの像です。大国主は、うさぎがさめにおそわれたところを助けた優しい神様です。このお話は「因幡(いなば)の白兎」という昔話で有名です。「因幡(いなば)」というのは今の鳥取県東部を指すのですが、鳥取県でも島根県でもいろいろなところで兎たちと会うことができます。また、大国主は「大黒様」「だいこくさま」としても広くしたわれています。

オオクニヌシが助けたうさぎは、オオクニヌシと元気になったうさぎは、オオクニヌシとヤガミヒメが結婚することを予言。白兎は実は神様だったのです。



④出雲大社の拝殿

〈拝殿

〈大きなしめ縄

〈拝礼所

御本殿で神様は西向きに鎮座(ちんざ)しています。そのため、御神座正面拝礼所からもお参りします。出雲大社の参拝作法は、「二礼四拍手一礼」です。

この出雲大社に、年に一度、旧暦10月に全国の神様（八百万の神）が集まって、来年1年間の重要事項について会議を行います。そのため、出雲の国では10月のことを「神在月」（神様がいらっしゃる月）、それ以外の国では「神無月」といいます。

疑問① 何の会議をしている？

➡答え

来年の天気はどうなるか、農作物は収穫できるか、という話し合いをするのですが、メインテーマは「縁結び」です。出雲大社が縁結びの神様として知られているのも、これに由来しています。

疑問② 10月以外の月は何という？

➡答え

←10月だけ特別です。

12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月
師走（しわす）	霜月（しもつき）	出雲では 神在月（かみありづき）	神無月（かんなづき）	長月（ながつき）	葉月（はづき）	文月（ふづき）	水無月（みなづき）	皐月（さつき）	卯月（うづき）	弥生（やよい）	如月（きさらぎ）	睦月（むつき）

ちなみに、神様を数えるときは、一人、二人ではなく「柱」という数え方をします。これは、木や柱、杭や串を、神様の魂が宿るものとして敬い、あがめていたからだといわれています。去年も今年も新型コロナウイルスで、神様もオンライン会議をしているのかな。

第4怪

『怪談』一夜

「雪女」

「飴を買う女」

松江の怪談

『怪談』

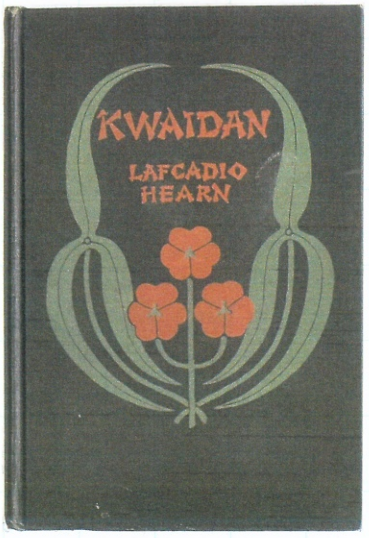
小泉八雲は幼少期に愛する母を失いました。孤独な日々を過ごす中で、しばしばお化けや幽霊を見る体験をしています。このような恐怖体験が『怪談』にもつながっています。

> 小泉八雲の『怪談』は、再話文学です。再話とは、すでに伝わっている昔話や伝説を、文学的に表現し直すことです。

今まで伝わってきた話を、歴史的な資料としてそのまま記録するのではなく、八雲独自の表現に変えて、よりこわい話にしたり、よりせつない話にしたりするのです。

そのため、たくさんある昔話や伝説の中で、どのお話を再話するのか、どのような表現に変えるのか、もっとくわしく書くのか、もっと分かりやすく書くのかというところは、八雲の想像力と文章力に関わってきます。

また、『怪談』を読むと、八雲の生い立ちや人柄が大きく影響しているように感じました。そのため、ぼくは「小泉八雲」の人間性が強く感じられる話を取り上げてまとめたいと思います。



『KWAIDAN』（怪談）

「子ども達がいるから命は取らない」

雪女は、妖怪として有名です。水木しげるの『妖怪ビジュアル大図鑑』にも、妖怪の人気者として紹介されています。

雪が降る夜、山に現れる女性の妖怪。息も凍る冬山を着物姿で歩いている。雪女に出会ってしまったら、だまって通り過ぎること。うっかり言葉をかわしてしまったら最後、たちまち食い殺されてしまう。

また、江戸時代には多くの絵師が雪女を美人画として描いています。そのため、雪女は若くて美しい女性であり、雪の白さから、白い肌や白い装束をまとう姿も定着しました。

このような白くて冷たい印象から、「雪女」のお話は人を殺してしまう恐ろしい話だと思われがちです。しかし、『怪談』の「雪女」では、母性を持つ優しい女性としての一面も描かれています。

ある夜、巳之吉はお雪に吹雪の夜の出来事を話してしまいます。雪女に、一言でもしゃべったら命はないと言われていたため、巳之吉は殺されてもおかしくはなかったのです。しかし、お雪は自分があの夜に出会った雪女であると正体を明かした上で、子ども達がいるから命は取らないと言い残し、白い霧となって消えてしまいました。

お雪と巳之吉の間には、10人の子どもに恵まれて幸せな日々を送っていました。人を殺してしまう恐ろしい雪女ですが、子どもをかわいそうに思って、巳之吉の命をうばうことはありませんでした。母親となった雪女は、子どもを思う優しい女性になったのです。

また、この「雪女」は、八雲が東京・大久保の家で青梅出身の奉公人から聞いた話を再話したものといわれています。

ぼくは、てっきり北海道や東北地方のお話だと思っていたのですが、冒頭をよく読むと「武蔵の国」と書かれています。

武蔵の国…現在の東京都
埼玉県、神奈川県の一部

しかも、八雲は青梅出身の人から聞いた話を再話したということなので、舞台は青梅？

多摩川沿いは自然豊かです。

2階

1階

「母の愛は死よりも強し」

「雪女」と同じように、母親の愛情を感じられるお話が「飴を買う女」です。『まんが日本昔ばなし』では、「子育て幽霊」という題名で放送されました。

毎夜、飴を買いに来る女のあとをつけてみると、女は墓の前で姿を消しました。墓の下からは赤ん坊の泣き声が聞こえてきます。墓を開けてみると、毎晩飴を買いにやって来た女のなきがらが横たわっており、そのとなりで赤ん坊がにこにこ笑っていました。

昔は、乳が手に入らないと、乳の代わりに水飴を赤ん坊にあげたそうです。女は亡くなってすぐに埋葬されてしまい、墓の中で赤ん坊が生まれたため、幽霊となった母親が赤ん坊のために毎夜飴を買い与えていたのです。

「飴を買う女」の最後は、次のように結ばれています。

Love being stronger than death.
「(母親の)愛は死よりも強い。」

八雲は幼くして母親と生き別れ、生涯母親への強い思いを持ち続けました。「飴を買う女」は八雲自身が思い入れの強い作品であると同時に、八雲の理想の母親像が描かれているように感じました。

「雪女」という妖怪、「飴を買う女」という幽霊が登場するお話なので、ちょっと読んだだけではただのこわいお話で終わってしまうかもしれません。でも、ぼくはこわいというよりせつないお話だと思いました。

子どもに対する母親の愛情はとても強く、自分が死んで幽霊になっても、その死を超えるほど強いということです。

そこで、お母さんにインタビュー。「飴を買う女」を読んだ感想を聞きました。

とてもせつないお話でした。母親はお腹の子と10カ月過ごした後に出産します。そのため、自分が亡くなって子の側にいてあげられないのは非常に気がかりだったはずです。産まれたばかりの子にミルクをあげたい、元気に育ってほしいと思うのは当然の思い。飴を買う母親の気持ちに深く共感しました。

「飴を買う女」の舞台は、松江市中原町にある大雄寺（だいおうじ）の墓地です。

大雄寺

本殿

墓地の子母夜買……
れた雪飴を……
のに、霊が来る伝説が
ため幽な
生まの夜にありました。
大雄寺で
の親ないと

「子育て幽霊」のお話は、全国に分布していて、「水飴を買う女」「飴買い幽霊」とも呼ばれています。
多くの伝承では、生きていた赤ん坊は大切に育てられ、やがて僧侶になったとされており、松江では「(子どもは)育ったのちに嫁いだ」と伝わっています。
しかし、八雲は赤ん坊のその後は描かず、「愛は死よりも強し。」としめくくりました。母親の愛を強調したのです。

母親が子を思う「力ばか」というお話もあります。急病で亡くなってしまった子が、今度は幸せに生まれ変わるよう祈ったお話です。これは八雲が新宿に住んでいたころ、髪結いの婦人から聞いたお話をもとにしています。子を思う母親の気持ちは、いつの時代もどこに住んでいても同じです。

また、八雲が母を思う気持ちは、弟ジェームズにあてた手紙からも読み取ることができます。

私達兄弟を産んでくれたのは、母です。お前と私を気品ある人間に産んでくださったのは、母なのです。権力や勘定高さなどではなく、人を愛する温かな心を、母は私達に授けてくださったのです。私は財産などよりも、母の写真が欲しいのです。

松江の怪談

「飴を買う女」は、島根県松江市が舞台のお話です。その他にも、松江の怪談として有名なお話がいくつもあります。

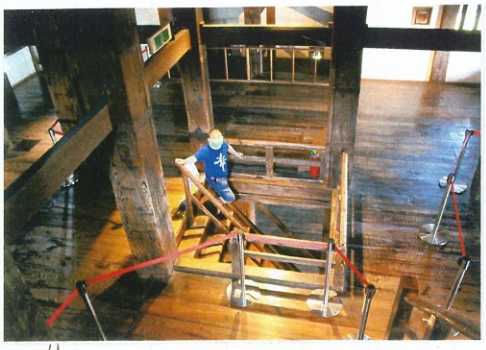
「小豆とぎ橋」は、普門院という寺の近くの小豆とぎ橋で謡曲「杜若」を歌ってはならないという言い伝えを破った侍に、不幸が訪れたお話です。

小豆とぎというと、妖怪として有名です。『京極夏彦の妖怪絵本あずきとぎ』にも出てきます。川辺に近づくと、しょきしょきしょきという小豆をとぐ音とともに、「小豆とぎましょか、人とって食いましょか」と、人を怖がらせる妖怪です。

小豆…日本古来の食べ物で、縄文時代の遺跡から発掘されたり、『古事記』にも記されたりしています。低脂質で高タンパクの栄養価が高い食べ物として重宝されたのはもちろん、呪術でも邪気を払う赤い色の小豆が重んじられました。

八雲は日本の怪談に興味を持ち、松江の自宅に普門院の住職に招いて「小豆とぎ橋」のお話をくわしく取材したそうです。

普門院の近くには松江城があります。松江城は、姫路城、松本城、彦根城、犬山城と並ぶ国宝5城のひとつです。八雲はこの松江城を「不気味で厳めしい竜」に例えました。



松江城

ギリギリ井戸跡

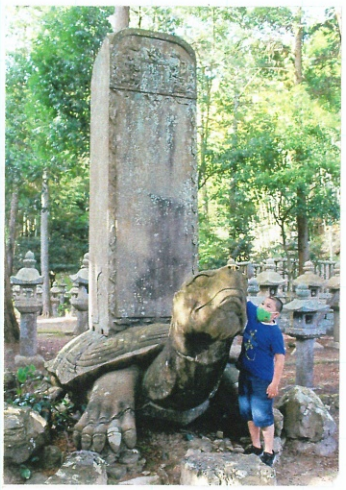
松江城には現在も語り継がれている怪談があります。

築城時、松江城の北東（鬼門）に何度積み直しても崩れてしまう石垣がありました。堀尾吉晴公は不審に思い、石垣の下を掘らせると、槍の穂先に貫かれたどくろが現れたのです。吉晴公はすぐに工事を中止し、三日間祈とうを行うと、石垣は二度と崩れませんでした。このとき掘った穴から清らかな水がわき出て、その穴が頭のつむじに似ていたことから、「ギリギリ井戸」と呼びました。（「ギリギリ」とは方言で「つむじ」のこと。）

また、石垣が積み上げられなかったときに、城下で催された盆踊り大会で一番美しく踊り上手な娘が人柱にされたという説もあり、今でも松江城の近くでは盆踊りは行われていないそうです。

月照寺の大亀伝説

月照寺は松江藩主松平家の菩提寺で、6代藩主の墓所には大亀の石像があります。この大亀は夜に徘徊して人を食らうため、寺の住職が説教し、藩主の功績を彫った石碑を大亀の背中に背負わせました。



大亀の首には、刀で切られたというあとが残っています。
大亀の頭をなでると長生きできるという言い伝えがあります。

清光院の松風

清光院の近くに住む武士が、松風という芸者にしつこく迫り、自分の屋敷に連れ込みました。しかし、松風は屋敷を脱出。清光院まで逃げたところで、追いかけてきた武士に刀で切られて絶命しました。そのときの松風の血の付いた足跡は、ふいても削っても消えませんでした。

清光院山門前

位牌堂

松風の血が付いた階段です。松風のお墓の近くで謡曲「松風」を歌うと幽霊が出るそうです。

『怪談』二夜

「守られた約束」

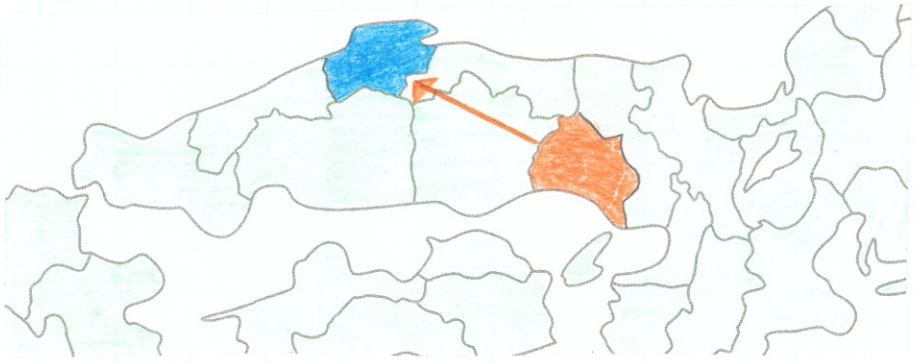
「鳥取のふとん」

水木しげる記念館

「菊の節句に戻って参る」

八雲の『怪談』には、「守られた約束」や「やぶられた約束」など、約束にまつわるお話がいくつもあります。中でも「守られた約束」は兄弟の固い絆を描いたお話です。

赤穴宗右衛門という侍が遠くへ旅に出るとき、義弟の丈部左門に、菊の節句である9月9日に帰ると約束します。左門は約束を信じて帰りを待ちますが、夜がふけても兄は帰ってきません。もう今日は戻らないだろうと家に入ろうとしたそのとき、兄が帰ってきました。しかし、兄はすでにこの世の者ではありませんでした。屋しきで拘束されてしまったため、「魂なら一日に千里を行くことができる」と思い、自害して魂になり、約束の日に帰ってきたのです。



…播磨の国（兵庫県）

…出雲の国（島根県）

ぼくは初めてこのお話を読んだときに、自害してまで約束を守ろうとすることにおどろきました。しかし、何度も読むうちに、命をかけてまで約束を守ることに、意志の強さや誠実さ、兄弟の固い絆を感じるようになり、ぼくが1番大好きなお話になりました。

ぼくは、以前にこのお話を『雨月物語』の「菊花の約」というお話でも読んだことがありました。

『雨月物語』

作者	上田秋成
成立	江戸時代の後期
内容	9編の物語からなる怪異小説集。「菊花の約」は中国の話をもとにした。

父を知らず、実母とも幼いうちに別れました。

「菊の節句」ってなんだろう？

→五節句の一つです。

1月7日　人日の節句（七草）
3月3日　上巳の節句（桃）　ひな祭り
5月5日　端午の節句（菖蒲）こどもの日
7月7日　七夕の節句（笹竹）
9月9日　重陽の節句（菊）

古来、菊は薬草に用いられてきましたが、「重陽の節句」も菊を用いて無病息災・不老長寿を願う日だということが分かりました。

今後の無事を祈り、命を尊ぶ節目の日に、必ず帰ってくると約束し、その約束を守るために命を絶った兄と、約束の日に帰ってくると信じて待つ弟のお話が、「菊花の約」であり、「守られた約束」なのです。

その後、弟佐門は出雲に向かい、兄宗右衛門の敵を討ちました。陰暦9月、菊は満開で見頃をむかえていました。

「兄さん寒かろう」「お前寒かろう」

兄弟の話といえば、「鳥取のふとん」です。

鳥取の小さい宿屋に一人の旅人が泊まりに来ました。旅人がふとんに入ると、ふとんから「兄さん寒かろう」「お前寒かろう」と、子どもの声が聞こえます。

そのふとんは、ある貧しい家族のものでした。両親が相次いで死んでしまい、残された二人の男の子は、身寄りもなく家賃も払えませんでした。大家は最後に残った1枚のふとんを取り上げて、子ども達を雪の中へ追い出したのです。

季節は本格的な冬。二人は「兄さん寒かろう」「お前寒かろう」と声を掛け合いながら、抱き合って眠りました。二人はそのまま永遠の眠りについたのです。

この「鳥取のふとん」は、八雲が鳥取県の小さな村の宿屋に滞在した際、中年の女中から通訳を通じて聞いた古い話を再話したものといわれています。

物語の結末、眠っている二人に、神様が新しいふとんをかけます。寒くてこごえる雪の夜に、雪のように白い純白のふとんがかけられたのです。悲しい運命の中で生きた兄弟を、八雲が最後に温かく包み込んであげたような気がしました。

ぼくは「鳥取のふとん」を読んで、兄弟が「兄さん寒かろう」「お前寒かろう」と、おたがいに声を掛け合い、いたわり合いながら抱き合って眠りについたところに、せつなさを感じました。

それと同時に、大家の心の冷たさに怒りを覚えました。子どもという弱い立場の相手に対して、ひどすぎると思いました。

ぼくは八雲の『怪談』を読むうちに、こわいのは暗がりでもなく、物音でもなく、幽霊でもなく、人間なのではないかと思うようになりました。

郊祭にこんなことがありました。

夏休みの出来事

「雪女」の舞台である青梅に行った帰りでした。大塚駅の改札を出ようとしたとき、歩きスマホをしていた若い男性が、両手でつえをついた足の不自由な男性にぶつかりました。ぶつかったしょうげきで、つえをついていた男性はバタンと倒れてしまったのですが、歩きスマホの男性は、無視してエスカレーターを上って行ってしまいました。周りにいた人達が倒れた男性を起こしてあげていて、ぼくも大丈夫だったかなと心配になって見ていました。歩きスマホ自体良くないことですが、ぶつかったときに謝りもせず、倒れたときに助けもせずに無視したことに、人間のこわさとおろかさを感じました。

鳥取といえば、妖怪のまち・境港です。境港は「ゲゲゲの鬼太郎」の作者・水木しげるさんの出身地です。

境港駅

「ゲゲゲの鬼太郎」の電車に乗って、米子駅から境港駅までは約45分間。妖怪好きは電車から楽しめます。さらに、駅から「水木しげる記念館」までは水木しげるロードを歩きながら、あらゆる妖怪達と出会うことができます。

〈境線・鬼太郎列車

〈公園

〈妖怪神社

「水木しげる記念館」

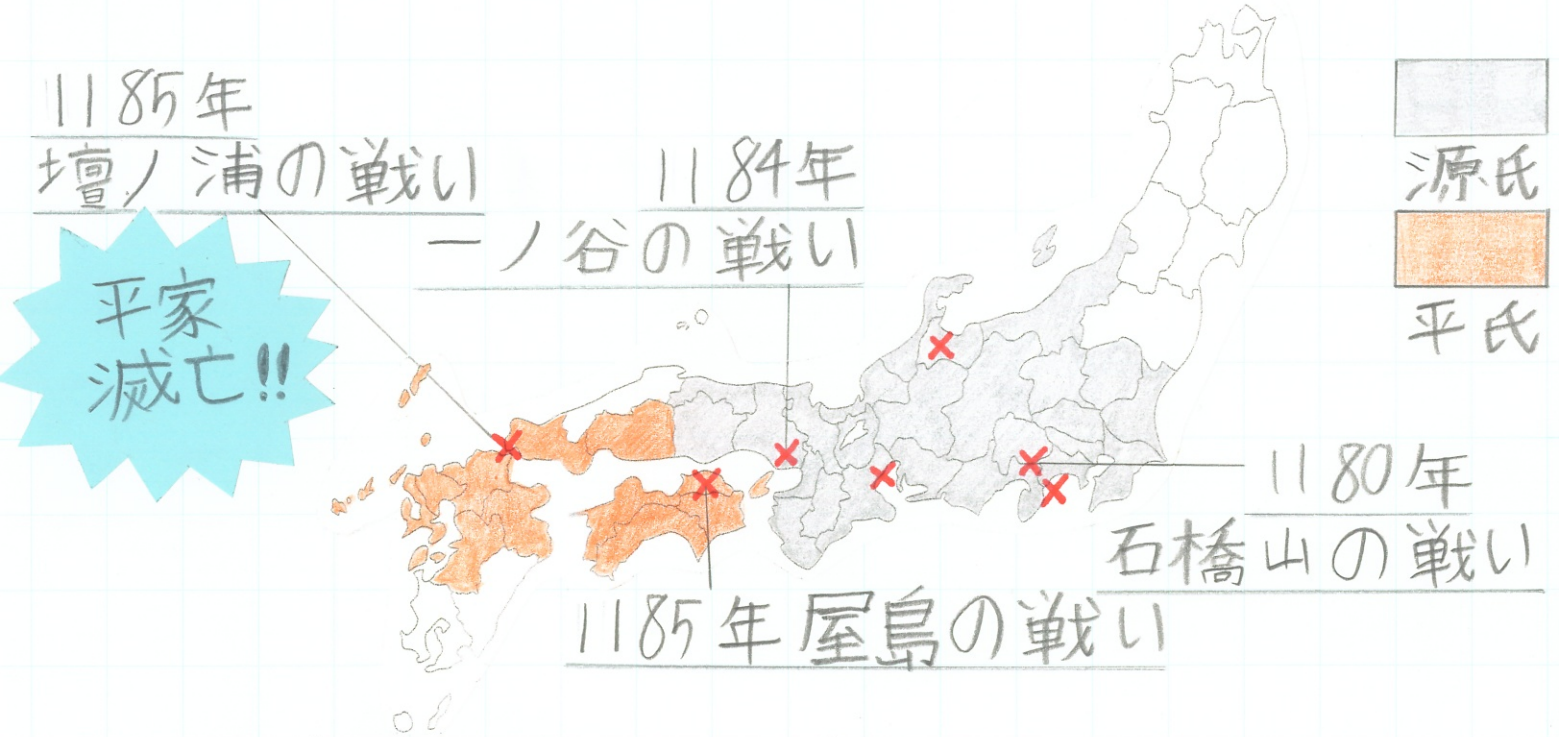
水木しげるさんにまつわる展示や、妖怪の展示がたくさんあり、とても楽しかったです。どうくつの中にリアルな妖怪がいて、ライトアップされているのが、こわいけれどおもしろくて、じっくりと見て回りました。

『怪談』 三夜

「耳なし芳一」

壇ノ浦の合戦（壇ノ浦の戦い）

1185年、長門国（山口県）赤間ヶ関（下関市）壇ノ浦で行われた源平最後の合戦。平家は源義経が率いる源氏軍に敗れ、安徳天皇は祖母の二位尼とともに入水。平氏一族の多くが入水あるいは戦死し、生け捕りになる者もいました。この戦いによって、それまで栄華をほこっていた平家は滅亡しました。



「壇ノ浦」の悲しいくだりとは？

➡壇ノ浦の合戦で平家は滅亡してしまいます。祖母の二位尼は、源氏に殺されるか、捕まって生涯つらい人生を送り続けるくらいなら、安徳天皇のためを思い、入水する覚悟を決めます。安徳天皇には、波の下に極楽浄土というすばらしい都があることを伝えて、ともに入水。安徳天皇はこのとき、まだ6才でした。歴代最年少での崩御、また悲劇の天皇として語り継がれています。

「壇の浦の合戦のくだりを語ってください。一番あれの深いところですから。」

八雲の『怪談』で最も有名なお話の一つが「耳なし芳一」です。このお話は江戸時代の怪談本『臥遊奇談』の中の一話「琵琶秘曲泣幽霊」がもとになっています。セツが語って聞かせたものを、八雲が再話しました。

セツは、「芳一の話はたいそうヘルン（八雲のこと）の気に入った話でございます。なかなか苦心いたしまして、もとは短い物であったのをあんなにいたしました。」と回想しています。

昔、赤間ヶ関の阿弥陀寺に芳一という盲目の琵琶の名手がいました。ある夏の夜、芳一は突然現れた武士に大きな館の中へ連れて行かれ、壇ノ浦の合戦のくだりを語るよう命じられます。和尚は平家の亡霊の仕業と確信し、芳一の全身に般若心経を書きますが、耳にだけ書くのを忘れてしまいます。芳一は武士の亡霊に耳をちぎられてしまいました。それ以来、「耳なし芳一」と呼ばれるようになりました。

※「般若心経」は、正式名称を「般若波羅蜜多心経」といいます。西遊記の三蔵法師として有名な玄奘がインドから持ち帰ったお経で、お釈迦様の教えを表しています。

平家と源平の争乱を描き、特に平家の栄華と没落を描いた作品が『平家物語』です。

祇園精舎の鐘の声、
諸行無常の響きあり。
沙羅双樹の花の色、
盛者必衰の理をあらはす。
おごれる者も久しからず、
ただ春の夜の夢のごとし。
たけき者も遂には滅びぬ、
偏に風の前の塵に同じ。

『平家物語』は琵琶法師によって、平曲として語られ、人々に親しまれました。

和楽器体験をしました。琵琶、尺八、篠笛、三味線を初めて演奏しましたが、音を出すのが難しかったです。

なぜ人々は、戦いに勝った源氏ではなく、戦いに負けた平家に共感するのか？

→はかないものに心を動かされるからかなと思いました。人も世の中も常に変わり続けるし、浮き沈みがあります。その中でも特に、登場人物の人柄や運命にあわれさを感じたときに、自分の気持ちと重ね合わせて、悲しさやつらさを共感するのかなと思いました。

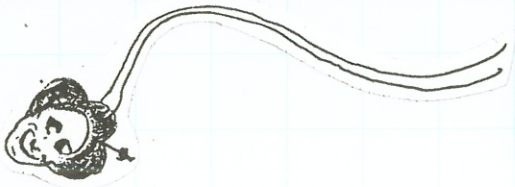
『怪談』四夜

「ろくろ首」

東京の怪談

角川武蔵野ミュージアム

ろくろ首



ろくろ首
(雲の自筆)

ろくろ首も、雪女と同じように妖怪として有名です。水木しげるの『妖怪ビジュアル大図鑑』にも、妖怪の人気者として紹介されています。

首だけがどこまでも伸びる妖怪。誰もが寝静まった夜中に、首をにゅーっと伸ばして獲者を探し回る。首が伸びるのは夜だけで、昼間は普通の女性の姿。

本にも書いてある通り、ろくろ首といえば自由自在に首の長さを変えることができる女性の姿を思い浮かべます。

しかし、『怪談』に出てくるろくろ首は、首から上を完全に胴体から離して浮遊させることができます。しかも、男女5人の首が登場します。この首の一つが主人公の回竜という僧のたもとに食いついて離れなかったのですが、回竜は生首をぶらさげたまま町を歩きます。

首のゆくえは?

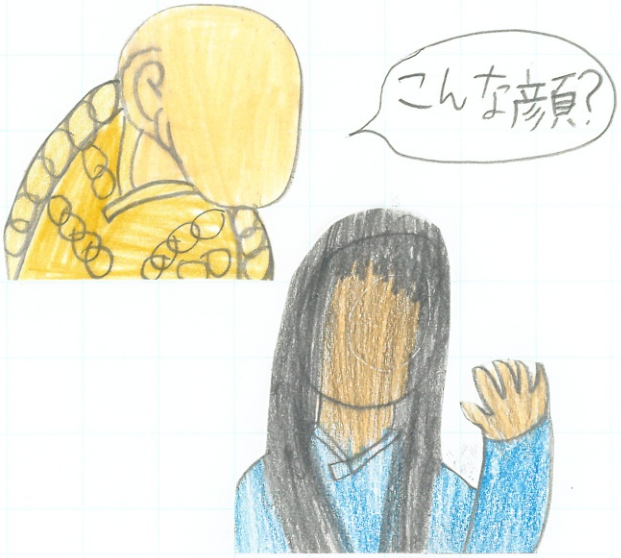
→このろくろ首は土に埋められ、「ろくろ首の塚」として、あつくとむらわれました。

『怪談』の結末でよく見られるのですが、こわいもの、気味の悪いもの、関わりたくないものがあった場合でも、最後にきちんととむらってあげるのです。八雲は、日本人の心づかいをよく見ていたのだと思います。

東京の怪談

「雪女」「ろくろ首」以外にも、『怪談』には妖怪のお話があります。それが「むじな」です。東京が舞台のお話です。

赤坂の紀伊国坂にむじなが出るというううわさがありました。ある晩遅く、京橋の商人が坂を登っていると、女性がうずくまって泣いていました。心配して声をかけると、振り返った女の顔には目も鼻も口もありません。驚いた商人が一目散に走って屋台に逃げ込むと、その店の主人ものっぺらぼうだったのです。



紀伊国坂

弁慶橋

実はハ雲も「顔なしお化け」にそうぐうしました。母を失ったハ雲にとって、身近で親しい存在だったジェーンという女性がいたのですが、ある日突然二度と顔を見たくないほどの憎悪の対象になってしまいました。そして、次に会ったとき、ジェーンの顔がなくなっていたのです。顔の代わりにあったのは、青ざめたのっぺりしたものだけでした。

ジェーンと何があった？

➡八雲が6才ごろ、ジェーンは「いい子でいなさい。神の思し召しにかなうようつとめなさい。」と言い聞かせました。八雲はこうした説教が大きらいでした。しかし、言うことを聞かないと、「地獄に落とし、永遠の業火で生きたまま焼いてあげよう！」などと、感情的に説教し続けました。そしてこの次に会ったときジェーンの顔はなかったのです。このときの恐怖が、幼かった八雲の心に深い傷を残しました。

『怪談』を読んで

初めて『怪談』を読んだときは、お化けが出てくるこわいお話だと思ったのですが、くり返し読んでいるうちに、せつないお話が多いと感じるようになりました。この世に思い残すことがあったから、死んだ人が幽霊になって現れる。約束を破ったから、恨まれるしたたられる。悪さをしたり欲に負けたりしたから、罪悪感が大きくなる。暗い時間帯や場所は危険だから、夜更けに妖怪が現れる。こわい話の背景には、人間の感情や運命があり、そこにぼくは引き込まれるのだと思いました。

また、『怪談』は再話文学であるため、八雲が気持ちを込めたお話ばかりです。八雲の生い立ちを知った上で読むと、よりせつなさが伝わると思いました。

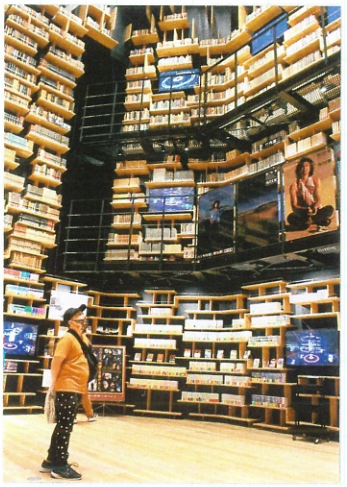
妖怪にまつわる展覧会は何度も見に行ったことがありますが、2020年に「ところざわサクラタウン」にできた「角川武蔵野ミュージアム」がとてもおもしろかったので、紹介します。

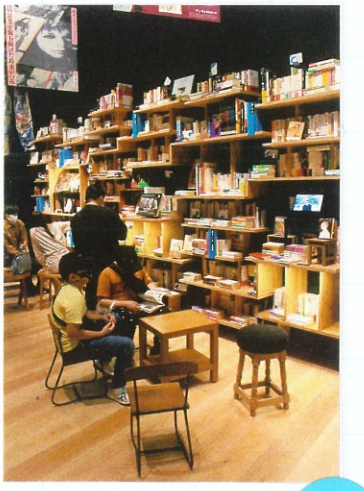
「角川武蔵野ミュージアム」

「荒俣宏の妖怪伏魔殿2020」と「妖怪大戦争展2021」という企画展を見に行きました。作家で妖怪研究家でもある荒俣宏さんがたずさわっているため、本格的で見応えがあります。

外壁には、疫病退散のアマビエを引き継ぐ劇場では、妖怪の本もあり、その場で読むこともできます。

「本と遊び、本と交わる」（コンセプト）





おわりに

おわりに

小泉八雲はギリシャで生まれ、アイルランドで育ち、アメリカや西インド諸島を経て、日本にやって来ました。

八雲は自分が何者なのか、自分の居場所がどこにあるのかを探してさまようかのように世界各地を転々としました。

そんな自分を動かすもののことを、八雲は「Ghost（ゴースト）」と表現しました。「ゴースト」というと、普通はお化けや幽霊といった目に見えないこわいものを思い浮かべると思います。でも、ぼくは八雲の生い立ちを知って、「ゴースト」というのは、自分ではどうすることもできない運命のことなのかなと思いました。

特に、ヨーロッパにいたときの八雲は不運の連続でした。母といっしょにいたいのに別れることになってしまった。遊んでいる最中の事故で左眼を失明してしまった。大叔母の経済的な事情で学校を辞めることになってしまった。

八雲は教師時代に、「つらい思い出が最も永く記憶に残る」という生徒の作文に強く共感しています。ぼくもそう思います。自分がつらい経験をしているからこそ、相手のつらさも分かり、気持ちを分かち合えるのだと思いました。

苦労が多い人生だったにもかかわらず、ぼくは、八雲は本当にすごいなあと感じたところがあります。

①他者を理解し、異文化を理解する、温かく優しいまなざしを持っているところ。
②興味関心のあるものをよく観察して研究し、努力を続けるところ。
③自分や人の心の動きに敏感で、豊かな想像力を持っているところ。

八雲は、日本の人々の表情、仕草、行いの一つ一つに心がこもっていてすばらしいと感じていました。
しかし、八雲が見ていた日本の人々と、今の日本の人々は同じでしょうか。ぼくは、上に挙げた3つのことは、今のぼく達にも必要であり、大事なことだと思いました。

また、八雲の『怪談』にはいろいろな人やこわいものが出てきます。でも、ただのこわいお話ではありません。一話一話を読んでいくと、登場人物の一人一人に感情があって、一つ一つの出来事に意味があるような気がするのです。
ぼくは、たくさんの人に『怪談』を読んでほしいので、お話の紹介ページも作りました。みなさん、ぜひ読んでみてください。

『怪談』の世界へ、ようこそ。

豊島区の図書館にある小泉八雲の『怪談』の本の中で、

小学生が1番読みやすいのは『怪談　小泉八雲のこわ～い話』（汐文社）です。

全10巻、40話が収録されています。

ぜひたくさんの人に読んでもらいたいと思い、紹介ページを作りました。

お話のはじめと、どんな内容かが分かるように、文を工夫しました。

	巻	作品名	内容
①	1	耳なし芳一	赤間が関に芳一という盲人がいた。芳一は有名な琵琶法師で、 琵琶を弾きながら平家物語を語ると誰もが涙を流したという。 ある夏の夜、阿弥陀寺で和尚を待っていると、一人の侍が訪ねて きて、物語を聞かせてほしいと言う。芳一を心配した和尚は…。 耳にお経を書くのを忘れて、耳をちぎられてしまうおそろしい話。
②	1	ろくろ首	磯貝平太左衛門武連という侍は、主君の菊池家が滅亡したため、 他の大名には仕えず僧となり、名を回竜と改めた。甲斐の国を 旅していると、親切な木こりが家に泊めてくれることに。案内された 家には4人の男女がいた。夜、5人が寝ている姿を見てみると…。 変化や妖怪の妖力は闇の間だけ発揮されるという不思議な話。
③	2	食人鬼	今から何百年も前のこと、夢窓国師という禅宗のお坊さんがいた。 夢窓国師が美濃の国を旅して道に迷い、小さな村の村長の家に 泊めてもらうが、家の主人は亡くなったばかりで、今夜通夜だと いう。死骸と一晩過ごすと恐ろしいことが起こると言われるが…。 私利私欲がたたって食人鬼に生まれ変わった僧の話。
④	2	ムジナ	江戸時代、紀の国坂の片側に大きな濠があり、その上に土手が あった。ある晩、京橋の商人が濠のそばで泣いている女を見た。 なぐさめようと話しかけるが女は背を向けたまま。女の肩に手を かけると、商人の方をくるりと向いたが、その顔は…。 街灯もない暗くてさびしい坂でムジナに出くわすこわい話。
⑤	2	青柳ものがたり	能登の国の大名に仕える侍、友忠は文武両道の達人だった。 20歳の冬、柳の木陰にある家で美しい娘、青柳に出会う。 結婚を申し出て京都に連れてきたが、青柳との関係が君主にばれて 屋敷に閉じ込められてしまう。友忠は死を決意して屋敷に行くと…。 切り倒された柳の木の切り株に思いをはせる切ない話。
⑥	3	幽霊滝の伝説	黒坂村の貧しい家に生まれた16歳の勝。ある冬の夜、みんなで 怪談話をしていたところ、一人の娘が幽霊滝へ行こうと言い出す。 幽霊滝に行った証拠に、神社の賽銭箱を持ってくることに。 怒気を帯びた声におびえながらも賽銭箱を抱えて行くと…。 「後悔先に立たず」という言葉をかみしめる話。
⑦	3	忠五郎の話	小石川に、旗本の用人をしている忠五郎という足軽がいた。 この頃、忠五郎が毎晩屋敷から出かけるようになり、顔色が 悪くなってきた。ある晩、年上の足軽に呼び止められ、理由を 尋ねられる。忠五郎は美しい娘に恋をしていると告白するが…。 見た目の悪い墓に命をとられてしまった不運な話。
⑧	3	果心居士	果心居士という老人は、地獄の苦しみを描いた絵を人に見せて 話をすることでお金をもらって生活していた。ある日、殿様である 織田信長に地獄絵を献上するよう言われるが断った帰り道、 信長の家臣、荒川に刀で切られ、絵が奪い取られてしまった…。 名画には魂が宿る？名画に振り回される愚かな人間の話。

	巻	作品名	内　容
⑨	4	やぶられた約束	妻が死ぬ間際、夫は武士のご誓言にかけて、再婚しないと約束し、死後は妻を鈴といっしょに庭の梅の木の下にほうむった。ところが、夫は若い女との再び結婚することに。婚礼をして7日目の夜、丑の刻に家の外から鈴の音が聞こえ、新嫁は恐怖におそわれる…。破られた約束によって相手の気持ちをふみにじってしまった話。
⑩	4	守られた約束	赤穴宗右衛門という侍が遠くへ旅に出るとき、義弟の丈部左門に9月9日に帰ると約束。左門は約束を信じ、当日の朝早くから兄を迎える支度を始める。しかし、夜がふけても兄は帰ってこない。もう今日は戻らないだろうと家に入ろうとしたそのとき…。弟と交わした約束を守るために命をかけた、兄弟愛の話。
⑪	4	和解	京都のある身分の低い侍は、自分が出世するために女房と別れ、新しい女と結婚し、新しい土地へ旅立つ。しばらくして、男は後悔し、女房の夢を見るようになる。数年後、仕事を終えて2人目の女房とも別れ、初めに住んでいた京の町へ戻り、家を訪ねるが…。和解できたと思ったのも、男の自己満足にすぎなかった話。
⑫	5	雪女	武蔵の国のある村で、18歳の巳之吉は茂作という老人と二人で木こりをしていた。冬のある寒い日、森から帰る途中でふぶきにあうが、川の渡し場にあるはずの舟が見当たらず、小屋の中へ逃げ込む。巳之吉が眠り込んでいると、顔に雪があたって目を覚ます…。夫に約束を破られても、子ども達への思いは温かい雪女の話。
⑬	5	ほうむられた秘密	丹波の国の商人、稲村屋源助には、お園という美しい娘がいた。お園は結婚して男の子を生み幸せに暮らしていたが、結婚4年目に病死。その葬式の晩のこと、お園のせがれが「おっかさんが帰ってきた」と言う。家の者が二階の部屋に行ってみると…。秘密にしておきたいものを、そのまま秘密にしておいた話。
⑭	5	梅津忠兵衛	梅津忠兵衛は、出羽の国の領主に仕えていた。ある夜中、城門を守る夜勤番をしようと山手の坂を上っていると、一番上の曲がり角に子どもを抱いた女がたたずんでいた。魔性のものが女の姿に化けているのではないかと疑ったとき、女が急ぎ足で近付いてきて…。自分の子どものお産のときに不思議な体験をするという話。
⑮	5	常識	愛宕山に、黙想と読経に明け暮れる徳の高いお坊さんがいた。ある日、お坊さんは寺に来た猟師に、白い象に乗った普賢菩薩が毎夜現れるのだと明かす。ありがたいお姿を拝むことができるから寺に泊まっていくよう勧める。9月20日の晩、光るものが現れて…。無学で信仰心がなくても、常識を持つことでだまされないという話。
⑯	6	死骸にまたがった男	夫から離縁を言い渡された女は、男への恨みと復しゅう心を抱いたまま、病のため死んでしまった。女の死骸を見た人々は逃げ出し、旅から戻った男も恐ろしさに身震いする。男はすぐに村の陰陽師に助けを求めると、助かる道はただ一つしかないと言われ…。恐ろしくても、勇気を持って最後まで相手に向き合うことが大切という話。

	巻	作品名	内　容
⑰	6	鳥取のふとんの話	鳥取のある町に小さい宿屋があり、一人の旅人が泊まりに来た。 旅の疲れをいやすためにふとんに入ると、部屋の中から子どもの声が 聞こえてくる。部屋を見渡すが誰もいない。よく聞いてみると、 声は旅人が寝ているかけぶとんから繰り返し聞こえてくる…。 幼い兄弟が、厳しい寒さと貧しさの中で互いに励まし合う悲しい話。
⑱	6	黒い手 （「因果話」より）	江戸時代のこと、ある殿様の奥方が病の床についていた。死の間際、 かわいがっていた側室の雪子を呼び、正室になってほしいと訴える。 さらに、庭の八重桜を見たいからおぶって連れていってほしいと言う。 奥方の最後の願いをかなえてあげようと雪子が立ち上がると…。 日頃の言葉や態度とは裏腹に、心の中では嫉妬に狂っていた女の話。
⑲	6	猫を描いた少年	いなかの小さな村に貧しい百姓の一家が暮らしていた。たくさんの 子どもがいたが、一番下の弟だけは畑仕事に向かない。ある日、 お寺の和尚に、この子を弟子にしてほしいと頼みに行く。男の子は 毎日修行に励んで成長したが、猫の絵を描くという欠点があった…。 自分の好きなことは止められない、得意な分野に進んでいく話。
⑳	6	帰ってきた死者	ある町に、深く愛し合う若い男女がいた。東北地方で戦が起こり 男も戦に出かけることになり、一年以内に戻るから祝言をあげよう と約束する。しかし、約束の一年が過ぎ、娘は思い悩むうちに病死。 両親が悲しみで町を離れた4日後、男が町へもどってくる…。 愛し合う気持ちの強さから、死んでもなおいっしょに生きていく話。
㉑	7	生霊	霊岸島に喜兵衛という商人がいた。喜兵衛の店は瀬戸物を扱う 大きな店で、六兵衛という優れた番頭のおかげで繁盛していた。 そして六兵衛の甥の若者も雇って7か月経ったころ、この働き者の 若者の体の具合が悪くなって、名医に診察してもらったところ…。 一人息子の将来を心配して他人を恨む、母親の複雑な心の話。
㉒	7	死霊	越前の国に野本弥治右衛門という代官がおり、一生懸命働いていた。 ところが弥治右衛門が亡くなると、何人かの小役人が悪さを始め、 弥治右衛門の家族から屋敷を取り上げ、国から追放しようとした。 追放の命令書を持った役人が来たとき、女中に奇妙なことが起こる…。 悪事を企んだ者はそれにふさわしい罰が与えられるという話。
㉓	7	亡霊 （「宿世の恋」より）	牛込に飯島平左衛門という旗本ががいた。一人娘の露が16歳のとき、 平左衛門は再婚したが、露は継母になじめなかったため、柳島に 別荘を建て、女中のお米と住まわせた。ある日、露は若い侍、 萩原新三郎と恋に落ちるが、再び訪れてくれることはなく…。 仏様の力を借りながら、助かりたいという自分の気持ちを大事にする話。
㉔	7	かけひき	武士の時代、重い罪を犯した者の多くは「打ち首」という刑罰が与え られた。そのころ、一人の男が屋敷の庭に引き出され、処刑されよう というとき、罪人の男が「打ち首は勘弁してくれ。」と叫ぶが、主人は 断る。すると男は、恨んで死んだという証拠を見せるという…。 恨みを持つ人間の気をそらしたことで、たたりから免れた話。

	巻	作品名	内容
㉕	8	化け蜘蛛	人里を離れた山の中に、古くさびれたお寺があった。このお寺に化け物が住みついているという噂があり、生きて帰った者は一人もいなかった。ある時、噂を聞きつけた一人の侍がお寺にやって来て、一晩夜を明かすと言う。侍は一人でお寺の中に入っていくと…。年老いたお坊さんに化けた、大きな化け蜘蛛を退治する話。
㉖	8	水あめを買う女	中原町という所にあめ屋があった。ある晩のこと、青白い顔をしてげっそりとやせた白い着物の女が、水あめのびんを買っていった。それが何日も続いたことを不思議に思った主人は、女のあとをつけていくことに。女はしばらく歩くと墓場の中に入って消えてしまった…。生まれた赤ん坊のために毎晩水あめを買いに行った優しい母親の話。
㉗	8	鏡の乙女	南伊勢国の大河内明神の社は荒れ果て、社を建て直すお金を出してもらうために、神社の宮司、松村兵庫は京の都へ上った。将軍から返事をもらうまで京極に屋敷を借りて住むことに。しかし、その屋敷には悪霊がいて、何人も井戸に身を投げて死んだと言う噂が…。鏡には不思議な力があり、女性の魂が宿っているという話。
㉘	8	勝五郎の転生記	武蔵の国に中野村谷津入に、勝五郎という少年がいた。ある日、勝五郎は姉のふさに、生まれる前のことを知らないのかと聞く。姉は知らないと答えるが、勝五郎は今の家に生まれる前の話を知っているのだと言う。その秘密を両親にも話してみると…。一度死んだ人が転生する（生まれ変わる）不思議な話。
㉙	8	興義和尚の話	近江の国の大津に三井寺という有名なお寺があった。そのお寺の興義和尚は魚の絵を描くことが一番好きだった。しかし、魚の絵だけ決して人に売らないのは、絵を欲しがる人のほとんどが魚を食べているからだった。ある年の夏、興義は病気になって寝込んでしまう…。魚が水の中を自由に泳ぐこと、魚や生き物を大切にする話。
㉚	9	子捨ての話	出雲の国の持田浦に、貧しい百姓の夫婦が住んでいた。あまりに貧しかったので、赤ん坊が生まれるたびに川に流して捨てることが6人にもなった。何年か過ぎて生活が多少豊かになり、7人目の赤ん坊が生まれた。かわいい男の子で、子を育てる幸せを感じていたところ…。子を何人も殺した過去を、忘れた頃に思い出させられるゾッとする話。
㉛	9	若がえりの泉	ある山奥にきこりの夫婦がいた。2人は年をとっていたが、仲良く暮らしていた。夫は毎日森に木を切りに出かけ、妻は夫を見送る毎日。ある日、きこりは良い木を探して奥の森まで行ったが、探し求める木が見つからない。のどをうるおすために泉の水を一口飲んでみると…。若返ろうと水を飲み過ぎてしまう、過ぎたるは及ばざるがごとしの話。
㉜	9	死者の影（「伊藤則資の話」より）	山城の国の宇治の町に、伊藤帯刀則資という若い侍が住んでいた。則資は平家の子孫だったが、家は貧しく出世をあきらめていた。ある年の夕暮れどき、きれいな着物姿の少女に出会い屋敷まで見送ることに。屋敷には老女が待っており、則資の名前も知っているという…。美しい女性に心を奪われて、亡霊に寒気も恐怖も感じない男の話。

	巻	作品名	内容
㉝	9	鮫人の恩返し	近江の国の琵琶湖の近くに、俵屋藤太郎というお金持ちが住んでいた。 藤太郎は最高の美人と結婚したいという夢を持っていた。ある日、 唐橋の手すりに奇妙なものがうずくまっているのを見つけた。不思議な 生き物に何者か尋ねると、海の底深くに住む鮫人間だという…。 鮫人の世話をすることで、鮫人も男も前に進み、幸せになった話。
㉞	9	雉子の話	尾州の国の遠山の里に、若いお百姓夫婦が住んでいた。ある夜、 妻の枕元に、数年前に亡くなった義父が現れて、助けてくれと言う。 翌朝、家の外で大きな叫び声が聞こえて戸口へ走ると、地頭が狩りの 一行を引き連れている。そこへ一羽の雉子が家の中へとびこんできた…。 妻の気持ちを考えず、自分の欲に走った夫に、妻が愛想を尽かす話。
㉟	10	おしどり	陸奥の国の田村郷に、尊允という猟師がいた。ある日、尊允は猟に 出たものの獲物を一匹も見つけられず家に帰ることにした。川を 渡ろうとしたとき、ひとつがいのおしどりが泳いでいるのを見た。 ひどくお腹がすいていた尊允はおしどりに向かって矢を放った…。 いつもならしないことを、欲にまかせてしてしまい、後悔する話。
㊱	10	蠅の話	京都に飾屋久兵衛という商人が住んでおり、店には若狭の国生まれの たまという娘が働いていた。たまには一つだけ困ったところがあり、 身だしなみを整えず、休みの日でも仕事着で出かけていく。久兵衛が なぜ身だしなみに気を使わないのか尋ねると、たまは顔を赤らめて…。 両親の供養を行うために節約する娘を認めて大切に思う話。
㊲	10	お亀の話	土佐の国の名越に、権右衛門という長者がいた。お亀という娘がおり、 お亀は八右衛門という若者と結婚したが、流行り病にかかり弱っていく。 お亀は八右衛門に他の人と結婚しないでほしいとお願いして亡くなる。 お亀の死後、八右衛門の顔色は悪くなり、体も骨と皮になっていき…。 愛する者を失う悲しみは大きく、心身に影響を及ぼすという話。
㊳	10	ちんちん小袴	あるところに、顔立ちは可愛らしいのにとてもものぐさな女の子がいた。 女の子の家はお金持ちで、手伝いをしてくれる奉公人がいて甘やかされ、 自分で何もしなくなってしまった。月日は流れ、娘は立派な武士と結婚 するが、身の回りの世話をしてくれる人がおらず、大変なことに…。 ものぐさな娘をこらしめようと、たたみの精が怒ったという面白い話。
㊴	10	よみがえり	讃岐の国の山田郡に、布敷臣という人がいた。子どもは女の子一人で、 名を衣女といい、健康で美しい娘だった。衣女が8歳のとき、疫病の ため寝込んでしまい、両親は疫病神にお供え物をして熱心にお祈りする。 その間、衣女は不思議な夢を見る。目の前に疫病神が現れて…。 同じ名前を持ち、同じ病にかかった娘の魂が入れ替わる不思議な話。
㊵	10	おばあさんと だんごと鬼の話	ある村に、だんごを作ることが大好きなおばあさんがいた。ある日、 夕食の支度をしているときに、手元がすべってだんごを一つ落とす。 だんごを取ろうと穴に手をつっこむと、穴がくずれて深い穴の中に 落ちてしまった。おばあさんはどこか別の世界に来たらしい…。 鬼の住む屋敷にあったしゃもじのおかげで、幸せに暮らした話。

小泉八雲のお墓は、豊島区の「雑司ケ谷霊園」にあります。八雲のとなりに妻セツのお墓も並んでいました。

『怪談』の原文は英語で書かれているので、中学生になったら英語の勉強をがんばって、原文で読めるようになりたいです。決意もこめて、お墓に手を合わせてお参りしました。

完

参考資料

＊ 参考資料

出 典	著 者 ／ 出 版 社	図書館
怪談 小泉八雲のこわ～い話 ①耳なし芳一・ろくろ首 ②食人鬼・ムジナ・青柳ものがたり ③幽霊滝の伝説・その他二編 ④やぶられた約束・その他二編 ⑤雪女・その他三編 ⑥死骸にまたがった男・その他四編 ⑦亡霊・その他三編 ⑧化け蜘蛛・その他四編 ⑨死者の影・その他四編 ⑩おしどり・その他五編	原作：小泉八雲 絵・文：高村忠範 汐文社	豊島区立 中央図書館
小泉八雲東大講義録 日本文学の未来のために	ラフカディオ・ハーン／編訳：池田雅之 ／角川ソフィア文庫	
世界の神話	沖田瑞穂／岩波ジュニア新書	
耳なし芳一・雪女 新装版 ー八雲 怪談傑作集ー	作：小泉八雲／訳：保永貞夫 ／絵：黒井健／講談社 青い鳥文庫	
ラフカディオ・ハーン 日本のこころを描く	河島弘美／岩波ジュニア新書	
あずきとぎ	作：京極夏彦／絵：町田尚子 ／編：東雅夫／岩崎書店	私物
1話5分！12歳までに読みたい名作100	監修：中島克治／新星出版社	
NHK「100分de名著」ブックス 小泉八雲 日本の面影	池田雅之／NHK出版	
親子で学ぶ 小泉八雲	宍道正年／山陰中央新報社	
かみさまのおはなし	原作：藤田ミツ／講談社	
決定版 心をそだてる 松谷みよ子の日本の神話	松谷みよ子／講談社	
小泉八雲 ー放浪するゴーストー	監修：池田雅之 ／新宿区立新宿歴史博物館	
5分で読む！名作&文豪ビジュアル大事典	編集：目黒哲也、清水雄輔、樋口亨、 村手佳奈／学研プラス	
最強アイテムビジュアル大百科	監修：田代脩／学研プラス	
大迫力！日本の神々大百科	監修：戸部民夫／西東社	
日本史探偵コナン4〔奈良時代〕 5〔平安時代〕 6〔鎌倉時代〕	原作：青山剛昌／小学館	
ねこねこ日本史でよくわかる 都道府県	原作：そにしけんじ／実業之日本社	
文豪ノ怪談ジュニア・セレクション 夢 夏目漱石・芥川龍之介ほか 呪 小泉八雲・三島由紀夫ほか 霊 星新一・室生犀星ほか 死 内田百閒・林芙美子ほか	編：東雅夫／汐文社 絵：山科理恵 絵：羽尻利門 絵：金井田英津子 絵：玉川麻衣	
まんがで読む 四谷怪談・雨月物語	監修：板坂則子／学研プラス	
妖怪ビジュアル大図鑑	水木しげる／講談社	

＊ 参考資料

出　典	著 者 ／ 出 版 社	図書館
まんがで読む古事記	竹田恒泰（監修）／学研	豊成小図書室

インターネット	ＵＲＬ
出雲大社	izumooyashiro.or.jp
角川武蔵野ミュージアム	kadcul.com
月照寺（松江藩主菩提寺）	www.gesshoji-matsue.com
小泉八雲記念館	www.hearn-museum-matsue.jp
島根県立古代出雲歴史博物館	www.izm.ed.jp
新宿区立新宿歴史博物館	www.regasu-shinjuku.or.jp
東京国立博物館	www.tnm.jp
普門院（松江市普門院）	matsue-fumon.jp
松江城	www.matsue-castle.jp
水木しげる記念館	http://mizuki.sakaiminato.net/
三峯神社	www.mitsuminejinja.or.jp

＊資料のコピーは、参考資料のものを使用しました。
＊写真は、すべて母が撮影しました。　以上